

# Tempo Primo News

Vol.7

2020 September

テンポプリモニュースは、弊社のアーティストを紹介すると共に、全国の主催者・音楽関係者をつなぐニュースレターです。

www.tempoprimo.co.jp

## 特集 テンポプリモが贈る邦人アーティスト企画



コロナ禍が10か月近くに及んでいます。世の中は少しずつ落ち着きを取り戻していますが、我々クラシック業界においては、何よりも客席の50%入場の規制が緩くなったことが大きな前進となりました。50%ではチケットが完売になったことも採算が取れないため公演を行うことができず、これが理由で公演のキャンセルが続出していただけに、今後の公演の開催を促すものとしてたいへん喜ばしいことであります。

今回の緩和は今年11月末までの時限措置ではありますが、余程のことが無い限りは12月以降も元に戻ることはないと考えます。というのも、クラシック音楽公演運営推進協議会による実証実験の結果、換気の効いた会場において行われる、大声を発したり隣の観客と肩を組むようなことのない鑑賞型のコンサートでは、マスク着用など飛沫防止の対策を適切に取ることによって感染リスクが最小限にまで押さえられるとされています。つまり、業界のガイドラインに即して入場時の検温やロビーでの社会的距離の管理を適切に行うことで、十分な感染対策を取れば余程のことが無い限り12月以降に再規制されることはないと言えます。

規制が緩和された今、次に行うのはお客様を会場に呼び戻すことだと考えます。12月以降もどうなるか分からないとご心配される主催者様もいらっしゃるでしょう。チケットも今は中々売れないと嘆く声も聞かれ、公演再開を躊躇される向きも未だあります。しかしまずは共に前を向いて、お客様を呼び戻そうという気持ちをもつて取り組みませんか？「私たちはこのように十分な安全対策を取っています。心配ないのでぜひコンサートに足を運んでください」とお客様に呼び掛け、お客様がコンサートに足を運ぶ機運を私たち自ら作っていくのです。トラベル、イートに続いて、チケット代の割引が受けられるGOTOイベントキャンペーンも10月中旬に開始予定と聞いていますし、もうそろそろ前を向かなければなりません。自戒を込めて言いますが、慎重すぎたり後ろ向きだったりするのをそろそろ止め、弱気の虫を退治し立ち上がっていきましょ！コンサートを積極的に行って、アーティストが自己の表現を行う場を取り戻し、しっかりと出演料を払って彼らの生活の糧を保証し、それを次の活動につなげてゆく、その循環を再構築していきましょう。

一刻も早く再開しないと、このままでは芸術を生み出すアーティストが機会を失い生計も立てられず、日本の音楽界が衰退していくかねません。今のこの雰囲気を変えてゆくことが大切です。皆様の力をぜひお貸し下さい！

2020年9月23日

株式会社テンポプリモ 代表取締役

中村聡武



今月のおすすめCD

## ジュリアン・ブリーム計報によせて

先日、クラシックギタリストのジュリアン・ブリームが天に召されてしまいました。私がギターを習い始めて早いもので37年が経過しようとしています。最初の先生に「音がきれいな演奏家はどなたでしょうか？」と尋ねたところ彼の名前が出ました。その頃はまだインターネットが普及していなかったので、恐らく今はもうなくなってしまいましたが、秋葉原にあった石丸電気辺りに買いに行っと思います。手に入れたのはバッハのリュート組曲でした。先生がおっしゃったように音がきれいで曲想も聞きやすい演奏でした。

その後、当時よく発表会などで耳にしたフェルディナンド・カルリという作曲家の「ラルゴとロンド」を演奏する機会があり、ジュリアン・ブリームとジョン・ウィリアムズの二重奏曲集のCD(写真 BMGビクター BVCC8859'60 廃盤)を買いましてお手本としてよく聴いていました。今でも愛聴盤の1枚となっています。そんな彼が亡くなってしまったことに悲しみを覚えるとともに巨匠が旅立ってしまった虚しさも感じます。合掌。

株式会社テンポプリモ 経理担当 牧 初恵



レーベル:MGビクター BVCC8859'60 廃盤

## ジュリアン・ブリームとジョン・ウィリアムズの二重奏曲集

### コロナ禍での取り組み /

## 東京交響楽団一映像指揮による演奏会

コロナウイルスの影響により中止が続いた演奏会も7月以降、外国人アーティストの招聘が未だ実現しない中、各オーケストラが模索しながら演奏会が再開し始めました。そんな中、クラシック好きと業界関係者の注目を集める公演が7月18日と25日に、東京交響楽団によって行われました。この日のプログラムは、前半にはストラヴィンスキーの「八調の交響曲」を指揮無しでコンサート・マスターによる弾き振りにより演奏。そして、後半ではベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」を同楽団の音楽監督であるジョナサン・ノットが、なんと映像出演で指揮し、演奏を行いました。

オーケストラの中に大型のテレビを3台、そしてお客様向きに1台、合計4台を設置。当初は同時中継での指揮による演奏を目指したそうですが、どうしても技術的な問題が解決できなかったため、事前に録画した映像にそって、オーケストラが演奏する形に。このシステムに対する是非はさておき、演奏そのものは非常に良く、演奏終了後の鳴り止まない拍手もさることながら、評論家の方を始め、ネットで多くの方から評価されていました。

この演奏会が実現するまでに、もちろん様々な議論があったみたいですが、コロナ禍での取り組みの一つとして、クラシック音楽の演奏史の中で一つ歴史に残る演奏会になったのではないのでしょうか。

かつて、「帝王」と呼ばれたヘルベルト・フォン・カラヤンは飛行機移動を駆使し、世界各地で非常に数多くの公演を指揮しました。オーケストラとの親密な関係が前提とは思いつつ、もし技術的な問題がクリアされれば、いつの日か移動することなく、どんな状況になっても日本やドイツ、イギリスなど世界各地の公演を指揮出来る、そんな日が来るのかもしれません。

演奏会実現までについては、東京交響楽団の公式サイトに事務局長の辻 敏さんによる文章が掲載されているので、ぜひご一読ください。



URL <https://tokyosymphony.jp/pc/feature/interview14.html>

## 編集後記

コロナの影響が未だ続き、なかなか旅行をするのが憚られ、9月になっても暑い日が続くなど、外に出たくなくなる日々でしたが、皆様いかがお過ごしでしたか。中には、コロナ禍で時間が出来た結果、新しいことを始めた方もいらっしゃると思います。

かくいう自分もLPにハマってしまい、今まで以上に音楽漬けな毎日。元々は聴けない環境だったのですが、コロナの影響で時間が出来たので、この機会に部屋を整理し、

株式会社テンポプリモ マネジメント・オフィス  
Tempo Primo Japan Co., Ltd. Management Office

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-19  
銀座三真ビル4階

## 経営理念

株式会社テンポプリモは、全従業員の物心両面の幸福を追求するとともに、3つのA(Artist, Audience, Art)に尽くし、芸術の力で世の中を明るくしてゆくことを経営理念と致します。

新入社員

おけいえ なつみ  
桶家 菜摘



皆さま初めまして。

新入社員の桶家菜摘(おけいえなつみ)と申します。簡単に自己紹介をさせていただきます。石川県生まれの富山県育ちで、海と山に囲まれて幼少期を過ごしました。音楽との出会いは6歳の頃に友達に誘われてピアノ教室に通い始めたことです。残念ながらピアノの才能はなかったのですが、果敢に難曲にチャレンジしては先生を困らせる生徒でした…。

そして中学生の時に吹奏楽部でクラリネットを始めます。クラリネットの持つ柔軟な音色に魅せられ、レッスンに通い始めてそのまま音大まで入学してしまいました。他にも声楽を嗜んだり、趣味は舞台やミュージカル、映画鑑賞だったりします。

こんな私ですがどうぞよろしくお願いいたします。



テンポプリモ世の休日

今夏の東京は、オリンピックどころかコロナに五輪延期にGo To除外と、出るな来るな急転直下。夏休みは家で読書し、カフェで読書しと大人しく過ごしておりました。思い返せば読んだ本のうち10冊が村上春樹。積ん読していた長編を読破しようと思い立ち、その勢いが止まらなくなってしまったわけでございます。

大好きと大嫌いで世評が華麗に二分される村上春樹ですが、私はなかなか好きなたちです。独特の回りくどい文体も味のうち…なんて言いつつ、随所に登場するクラシック音楽が気になってしまうのがこの業界の人間の性というもの。ヤナーチェクの「シンフォニエッタ」、リストの「巡礼の年」、モーツァルトの歌曲「すみれ」、作中で象徴的に流れる音楽には枚挙に暇がありません。

そんな村上春樹のクラシック音楽、作中で演奏者名まで明言されるのが常。しかし直近の長編「騎士団長殺し」では登場する「ドン・ジョヴァンニ」の演奏者名が明らかにされておらず、気になって気になって…。LPで発売されていて、ドンナ・アンナの声が“可憐”であることが手かかり。カール・ベームの名盤が名高いですが、ワーグナー録音で名を馳せたビルギット・ニルソンが歌うドンナ・アンナはちょっと可憐とは言えない。ジュリーニ盤で歌うサザードなんかは可憐と言って良いでしょうか。私は個人的にはムーティの演奏が好きですが、皆さんはいかがですか？

(久世 有貴)

スピーカーも新調。無事に部屋で聴けるようになりました。LPは今、再び人気が出ており、アメリカでは1986年以来初めてCDの売上をレコードが上回ったというニュースも。ふと思い出すと、昨年はルツェルンやロンドンで、ダニに悩まされながら音楽祭を聴いていた自分。今年は国内旅行も難しく、家でLP(やCDなど)を聴く毎日。本当に何がどうなるのか、世の中分からないものです。皆さんは、このコロナ禍をどのように過ごされていますか？

(宮嶋 大貴)

TEL: 03-3524-1221 FAX: 03-3524-1222  
E-mail: [info@tempoprimo.co.jp](mailto:info@tempoprimo.co.jp)  
[www.tempoprimo.co.jp](http://www.tempoprimo.co.jp)

Tempo Primo  
編集・発行 株式会社テンポプリモ

Recommended Artist Vol.7

今月のイチオシアーティスト

2021年  
12月

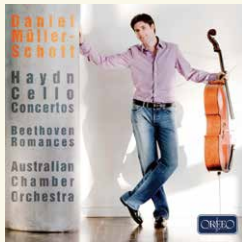
ダニエル・ミュラー＝ショット



ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、ハインリヒ・シフ、スティヴン・イッサーリスらに師事。ハイティンク、マゼール、ペトレニコら名だたる指揮者、ベルリンフィル、シュターツカペレ・ドレスデン、バリ管、シカゴ響、ボストン響などに客演。アンネ＝ゾフィー・ムター、ルノー・カプソン、ユリア・フィッシャー、ザビーネ・マイヤーなど超一流のソリストと共演。1976年生まれのダニエル・ミュラー＝ショット、音楽家としてはまだ前途洋々の年齢ですが、堂々たるキャリアと音楽性を築き上げています。

彼の魅力はなんと言っても音色のまろやかな美しさ。音の1粒1粒が愛情を込めて磨き上げられたよう。しかし一方で美音に終始することはなく、計算し尽くされた余韻、奇を衒うことなく練りに練られた解釈と歌心が、彼の音楽を唯一無二のものとしています。若くしてアンネ＝ゾフィー・ムターに認められたそのセンスは折り紙付き！

そんなダニエル・ミュラー＝ショットが、幼少期から生涯愛してやまない作曲家がJ. S. バッハです。初録音はバッハの無伴奏チェロ組曲、目標はバッハ無伴奏の再録音。2018年のドイツ統一の日の祭典、ベルリンのブランデンブルク門で約50万人の聴衆を前に演奏したバッハはもはや伝説の演奏。そんな彼の慈愛に満ちたどこまでも深いバッハ、琴線に触れまくること間違いありません。



オススメCD

ハイドン チェロ協奏曲第1番&第2番 ほか  
ダニエル・ミュラー＝ショット  
リチャード・トネッティ指揮オーストラリア室内管弦楽団  
ORFEO-080031



假屋崎省吾×横山幸雄「ピアノと花の華麗なる世界」



横浜シフォニエッタ (指揮: 山田和樹)



人気歌舞伎俳優によるトークショー (坂東玉三郎・片岡愛之助)



デーモン閣下が贈る能楽公演「幽玄悪魔」

テンポプリモが贈る日本人アーティスト特集！

**主**に海外から一流の演奏家を招聘している弊社ですが、一方で、国内アーティストによる企画物もバラエティに富んだラインナップで注目を集めています。一つずつ紹介していきます。まずは「**山田和樹指揮・横浜シフォニエッタ**」。日本が世界に誇る若手指揮者、山田和樹が音楽監督を務めるオーケストラです。今やスケジュールも取れない人気指揮者ですが、彼が作ったこのオーケストラだけは例外。山田和樹を呼びたければぜひお声がけください。次に「**かららクラシックコンサート**」。NHKの同番組の舞台版で、これまでに金子三勇士、宮本笑里、宮田大等人気アーティストが名曲を演奏して完売が続出しています。ロングセラー「**假屋崎省吾×横山幸雄「ピアノと花の華麗なる世界」**」は初開催から10年を迎えて、未だ各地でオフアーが引き切らない人気公演。假屋崎さんの分かりやすい解説と共に横山さんの名曲が楽しめる上、假屋崎さんのサブライズピアノ演奏やピアノと生け花のライブパフォーマンスなど盛りだくさんです。「**川島成道ヴァイオリン・リサイタル**」デビュー以来20年以上の長きにわたり素



尾上 松也「竜馬がゆく」

晴らしい美音を届け続けてくれる川島さん。バッハのアヴェ・マリアやツィゴイネルワイゼンなど、集客しやすい超名曲のリサイタルが可能です。視力をほとんど失ってからヴァイオリンを始めハンデを乗り越えてプロのソリストになった経験から、公演の前後で福祉施設でのアウトリーチの演奏も可能です。クラシック以外ではNHKの「**みんなのうたコンサート**」、また「**デーモン閣下が贈る能楽公演「幽玄悪魔」**」、また人気歌舞伎役者の朗読による「**言の葉コンサート**」**尾上松也・竜馬がゆく**」「**坂東玉三郎や片岡愛之助の「人気歌舞伎俳優によるトークショー**」など、各分野の超一流のアーティストによる様々な企画が目白押しです！

次年度以降の弊社企画

2021年度

オーケストラ

5-6月 ハンガリー・ブダペスト交響楽団 (指揮: 小林研一郎)  
7月 ポーランド放送交響楽団 (指揮: ローレンス・フォスター、ヴァイオリン: 庄司紗矢香)  
10-11月 ミュンヘン交響楽団 (指揮: ジュリアン・ラクリン、ピアノ: モナ・飛鳥)  
12月 キエフ国立フィルハーモニー交響楽団 (指揮: ニコライ・ジャジュラ)  
2022年4月 イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団 (指揮: ラハフ・シャニ)  
11-12月 サルツブルク・モーツァルトデウム管弦楽団 (指揮: トレヴァー・ピノック)

エンターテインメント

9-10月 ピアノ・パトル  
2022年1月 シルク・ドゥラ・シンフォニー  
6-7月 トリニティ・アイリッシュ・ダンス

指揮・ソロ・室内楽

4-5月 ヤボルカイ兄弟 (ヴァイオリン&チェロ)

4-5月 ウィーン・モーツァルトハウス弦楽四重奏団  
5-6月 ドミトリー・マスレーエフ (ピアノ)  
6月 ヴァハン・マルディロシアン (指揮: ピアノ)  
7月 ヴァレリー・ポリャンスキー (指揮)  
10-11月 ジュリアン・ラクリン (ヴァイオリン)  
11月 サラ・マクエルレイヴィ (ヴィオラ)  
12月 ダニエル・ミュラー＝ショット (チェロ)  
12-1月 ニコライ・ジャジュラ (指揮)  
ヴァハン・マルディロシアン (指揮: ピアノ)  
2月 ヴァレリー・ポリャンスキー (指揮)

調整中 サラ・チャン (ヴァイオリン)  
ジャスミン・チェイ (フルート)  
アレクサンドル・ラム (チェロ)

ブラムウェル・トーヴェイ (指揮)  
ライアン・バンクロフト (指揮)  
マイケル・シール (指揮)  
ジャン・レイサム＝ケーニック (指揮)

邦人企画

ららら♪クラシックコンサート  
川島成道ヴァイオリン・リサイタル  
横浜シフォニエッタ (指揮: 山田和樹)  
假屋崎省吾×横山幸雄「ピアノと花の華麗なる世界」  
みんなのうたコンサート  
デーモン閣下が贈る能楽公演「幽玄悪魔」  
言の葉コンサート「尾上松也・竜馬がゆく」  
坂東玉三郎トークショー  
片岡愛之助トークショー

[Youtube]



https://youtu.be/5z0-y6pU990

キャンセルが続いていた演奏会も、7月頃から再開され始めてきました。ヨーロッパでも同じように再開し始め、ザルツブルクやロンドンなどでは音楽祭も行われています。同時に9月は新シーズンの開始時期。多くのオーケストラが試行錯誤しながら、再開を始めています。一方でアメリカでは、ほとんどのオーケストラが年内の公演をキャンセル。世界中のオーケストラが一日も早く、元に戻り活動が再開出来ることを願っています。

今回紹介した公演は、左記URL先よりぜひご覧ください。

今回のプログラムは、チャイコフスキー作曲の「ロココ風の主題による変奏曲」。この曲は、チャイコフスキー・コンクールで演奏し高い評価を得た、得意とする1曲です。オケは2018年に来日したスヴェトラノフ記念ロシア国立交響楽団で、指揮はヴァシリイ・ペトレニコ。数少ないチェロ協奏曲の中でも、比較的演奏回数があるこの曲。有名なドヴォルザークのチェロ協奏曲とは大きく異なり、終始優しく朗らかな雰囲気、明るい曲調で終わります。ラムの演奏は、その中でも特に温かみを感じさせ、優しく朗々と歌うような演奏。技巧の完璧さもさることながら、コロナを受け、演奏活動もままならない日々から迎えた得意とするこの曲の演奏を心から楽しんでるように聴こえてきます。聴いているだけで、幸せをお裾分けしてもらったかのような気分になるのではないのでしょうか。

コロナウィルスの影響を受け、未だ海外アーティストの招聘が叶わない状況ですが、現地での活動はもろん再開されており、演奏会の配信が多く行われています。



Concert Report

コンサート・レポート

アレクサンドル・ラム  
(チェロ)

チャイコフスキー:ロココ風の主題による変奏曲

ヴァシリイ・ペトレニコ (指揮)  
スヴェトラノフ記念ロシア国立交響楽団  
2020年8月19日